

外来魚コクチバスの生態学的研究及び繁殖抑制技術の開発

内水面利用部
長野県水産試験場
養殖研究所
水産工学研究所
さけます資源管理センター

研究の背景目的

行政的・社会的問題となっている外来魚ブラックバスのうち、**コクチバス**についてその生態を解明し、その生態を利用した効率的な**繁殖抑制技術**の開発。

研究成果

- 1.産卵期は6～8月で、**産卵床を形成**し、産卵後は雄が防衛。
- 2.その時期に、**小型三枚刺し網**を、産卵床に置くと1時間以内に50～86%の確率で親を除去。
- 3.親がないあるいは親を除去した産卵床では、親が防衛している産卵床に比べ卵稚子の生残率が大幅に減少。減耗要因は**在来魚(ウグイ、ニゴイ等)の捕食**。
- 4.ウナギ等**夜行性の在来魚**は、親が防衛していても夜間に多くの卵を減少。

波及効果

- 1.小型三枚刺し網は安価なうえ簡易に行えるため漁業協同組合等に普及が見込まれている。また、本年度終了後「**コクチバス駆除マニュアル**」を作成し配布予定。
- 2.今後、開発された技術を組み合わせ、現場でコクチバス個体群を駆除あるいは管理できるか検証が必要。
- 3.琵琶湖等大型の湖沼では、駆除のための新しい技術開発が必要。

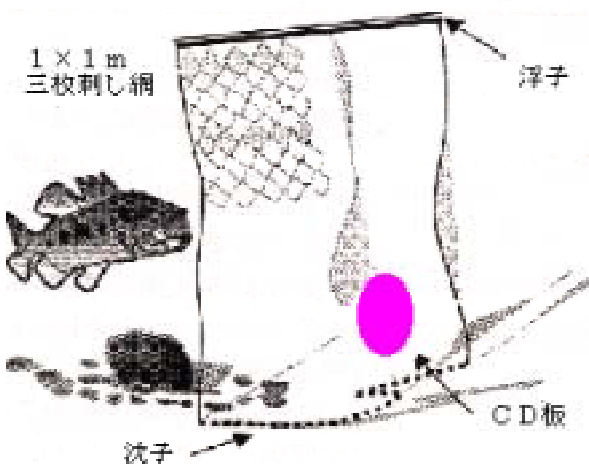


図1. コクチバス捕獲に使用した三枚刺し網

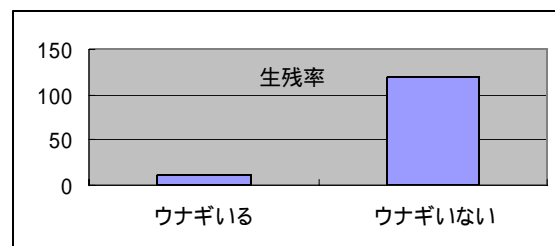
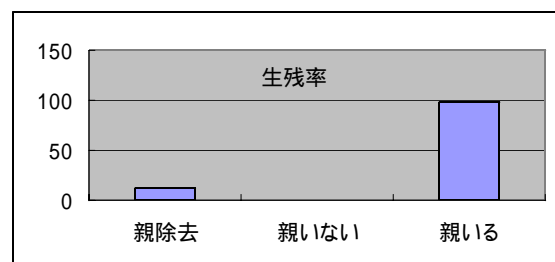


図2. 各種条件による産卵床卵稚子の生残率